

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.141

2011/08/19

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

「びわ湖の日」 制定30周年



水源の森体験ツアーに多くの来訪者

撮影:滋賀県



撮影:滋賀県

7月23日滋賀県主催本
会後援の「びわ湖の日制
定30周年」『びわ湖を
支える水源の森体験ツ
アー』が開催されました。午
前は西浅井文化ホールで
名古屋大学名誉教授の只
木良也氏の『びわ湖の水
の源を考える』の講演・
午後山門水源の森の散策（湿
原往復班と四季の
森コース）を本会会員のガイド6名で行いました。
湿原往復コース参加者には、下山後研修室でヒ
ノキの間伐材を使ってコースターの研磨を体験し
て貰い、今回新調した「山門水源の森」の焼き



只木氏

印を押して土産として持ち帰って貰いました。この催しが開催されるまでに、滋賀県との連絡会議が3回・観察
コースの整備と当日の土産作製に多くの会員に関わってもらい
ました。幸い100名を超える参加者があり、「山門水源の森」
の生物多様性と保全活動の実態を肌で感じてもらいました。



親子でコースターの作製

撮影:滋賀県

8月28日には、同じく滋賀
県主催「水源の森ウォーク
と湖上タクシーからの琵琶
湖観察」が開催されます。8
月西浅井観光協会主催ハイ
キングも多数の参加者で賑
わいました。これらの事業
と保全活動とを両立させる
には多くの会員の協力が必要
です。引き続きよろしく。



四季の森でサンショウウオの幼体を観

撮影:滋賀県



滋賀県小・中学校環境教育部会の研修・四季の森(11/08/12)

恒例となった夏休みの「自由研究」に今年も、子どもたちがやってきた。9時～16時までという学校では経験のない、長時間の観察に頑張った。もう夏休みも終盤だが、彼等はまとめが終わったのだろうか。本会会員も汗だくで子どもたちの観察の補助にあたった。学校現場の先生方も「夏休み」は無い。県下の小中学校の環境教育に携わっておられる先生方が今年は、「山門水源の森」へこられ「山門水源の森の生物多様性の保全活動」の話の後現地観察をしてもらいました。



今年も子どもたちが自由研究にやってきた



保全活動も手抜き無しで



北部湿原東側の草刈り完了の状態(11/07/29)

各種行事への対応を迫られるものの、本会の本来の活動である保全作業も手抜きは出来ない。7月から8月は、観察コース・北部湿原東側・四季の森と広範な地域の草刈りに追われた。草刈りは、必ずしも毎年行わなければならない地域ばかりではないのだが、1年間隔を空けると翌年の作業に余計な労力を割かねばなくなる。この作業も一部を除いて今年の作業は終了した。広い「四季の森」も草刈りの結果、広々とした景観が戻ってきました。参加して頂いたみなさん猛暑の中お疲れ様でした。

西浅井中学校陸上部の生徒諸君と会員が持ち上げてくれた土砂を使っのコース補修も、特に危険な部分については完了したものの、完璧までにはほど遠い状態が続いている。このように山積みされた作業をこなすのに精一杯の折、訪問者から「スズメバチの巣がある」との報告を受けこれに対処。2005年だったかに2カ所で巣が見つかり業者に依頼して駆除したが、その経費が6万円。なんとか自前で対処出来ないかと、急拵えの「防御服」をレンジャーが作製してくれ、トーチで巣に立ち向かうことと



観察コースの補修(11/07/21)

なった。幸い30分ほどの作業で駆除は完了したが、スズメバチはこれから11月までが本番。現在防御服の改良型を試作中である。今夏は天候が不順で森では、朝晩に降雨が続いている。その結果キノコや粘菌の発生が続いている。本格的な発生はこれからである。キノコ図鑑を片手に是非お訪ね下さい。これまでキノコの食害はそれほど気になっていませんでしたが、今年はシカがキノコをあちこちで喰っています。



スズメバチ駆除作業(11/08/15)